

美術部報 (平成十四年度)

美術部異動

平成十四年三月三十一日付で広領域研究室長 島尾新は退職した。
 平成十四年四月一日付で主任研究官 山梨絵美子は広領域研究室長に昇任した。
 平成十四年七月一日付で山口県立美術館学芸員 綿田稔が日本東洋美術研究室研究員に着任した。

国際研究会

東京文化財研究所ならびに東京国立博物館の共催による第二十六回文化財の保存に
 関する国際研究会は美術部の担当により「うごく モノ―時間・空間・コンテクス
 ト―」をテーマとして、平成十四年十二月四日(水) から十二月六日(金) の日程で
 東京国立博物館平成館講堂を会場として開催された。

美術部オープンレクチャー

第三十五回より公開学術講座の名称を美術部オープンレクチャーと改め、第三十六
 回に当たる今回は研究所セミナー室において「日本における外来美術の受容について」
 のテーマのもと左記のとおり二回にわたって開催した。

十月十八日(金) 午後二時〜四時半

異文化の模倣・増幅・拒絶―日中間における涅槃表現の流通と変容

情報調整室

井手誠之輔

経を写す 絵を写す

弘前大学

須藤 弘敏

十月十九日(土) 午後二時〜四時半

黒田清輝―日本の裸婦をどう描くか―

山梨絵美子

日本・藤田嗣治・フランス

京都造形芸術大学

林 洋子

『日本美術年鑑』の刊行

美術部編集による『日本美術年鑑』平成十四年版(平成十三年一月〜十二月の記事)

は平成十五年三月に刊行された。

黒田清輝巡回展

昭和五十二年以来、毎年開催してきた黒田清輝巡回展を、平成十四年度は七月十八
 日(木) から九月一日(日) まで鹿児島市立美術館で「黒田清輝 鹿児島が生んだ日
 本近代洋画の巨匠」というタイトルのもと開催した。

研究会

五月 八日 伝周文屏風(大和文華館本と前田育徳会本) について

東京都美術館

松木 寛

六月 二十六日 ウィーン美術史美術館所蔵の画帖について

情報調整室

塩谷 純

七月 二十四日 異文化受容と美術 第三回ミニシンポジウム

「図像の受容とゆくえ―中国・朝鮮と日本の仏教美術―」

浄土図の受容

勝木言一郎

日本における阿修羅像の図像の受容について

日本学術振興会特別研究員

水野 さや

白衣観音の行方

津田 徹英

中世の仏伝図と東アジア

中野 照男

デイスカッション 司会 国際文化財保存修復センター

岡田 健

十月 三十日 雪舟系花鳥図屏風について

綿田 稔

三月 十九日 クンストカーメラ所蔵フィッセル・コレクションの日本絵画

―川原慶賀作品を中心に―

山梨絵美子

国際シンポジウムに向けての研究会

四月 十日 各セッションの構成と名称について

四月 十九日 各セッションの趣旨と構成について

五月 九日 同

八月 二十日 チラシとプレプリントの内容について

十月 四日 チラシとプレプリントの確認

十一月 六日 各セッションの進捗状況の確認と問題点

十一月二十七日 各セッション趣旨説明原稿の発表と国内発表者を交えての討論

十一月二十九日 各セッションの主旨および発表内容と議論の方向性についての検討

十二月 三日 各発表者とセッション担当者による内容確認

三月 二十六日 今回の国際シンポジウムについての反省と今後の問題の検討、国内

発表者を交えての討論

国際シンポジウム『うごく モノ—時間・空間・コンテクスト—』
を振り返って

茨城大学 藤原 貞朗